

高退協 ニュース

高退協事務局

1987. 1.

No. 32

・迎 春
 ・激動の年にむかって 高退協・会長
 ・日教組問題について 高教組委員長
 ・奇星陥つ 小川 逸雄
 ・足摺研修旅行 叶岡 哲

迎春

会長 渋谷 巖

あけましておめでとうございませう。新春に、御一同様のご健康とご多幸を心より祈ります。

旧年はなにかとご支援をいたいただき厚くお礼申し上げます。

今日の政治情勢は、私達にとつて、かつてない厳しいものがあります。先には生活給である年金が改悪され、生活に対する不安が高まるなかで、新たに新型間接税の導入、マル優廃止など、重税のおうちで、生活はますます苦しくなるばかり。更に老健法改悪では、金のきれめが命のきれめとばかり、まさに老人は死ぬといわんばかりのしりぞ。

中曾根政権のこのよりなおごりたかぶつた弱者いじめの政治はもうたたくさん。来る四月に予定されている統一地方選挙には、政治の革新は地方から合言葉に、平和と民主主義を守り、臨教審に反対し、命と暮らしを守るために頑張ります。

本年もどうかよろしくご支援下さるようお願いいたします。

激動の年にむかって

高教組委員長 南 千加良

正念場の年である。

昨春、県教委は、「校長の声は天の声」と新採者に説教、夏には「戦後教育は間違い、企業的要請にこれたえていない」と財界ヒモツきの講師に言わせられた。

さらに教育次長は暴力を肯定、某校長は「働く能力のないアフリカ人が餓死するのは当然」と講演、拳句のはては「国労・動労は白昼強盗」という模倣テストまであらわれた。

教育長は「教育基本法にもとづき、改めるべきところは改めたい」と、いつになくうだれた。

ところが自民党は「どこが悪」民社にいたっては「陳腐の必要はない。毅然とせよ」と教育長をけしめつけた。

その自民党や民社にすり寄る日教組右派が、言いが通らなければ定期大会を開かないといふから、事は重大である。

新しい年は、まさに正念場である。日教組の再生と教育をとりもどす年である。

日教組の積極的伝統を守り 真の団結を回復するために

高教組委員長 門脇重勝

日教組は、田中委員長が自民党文政部長や文部政務次官として日教組攻撃の先頭に立ったことある西岡武夫前代議員（落選中）の「激励」会に出席し、「……この三年間西岡氏がいてくれたらと思わぬ日は一日もなかった。……（今度は当選して）倍働いてほしい……」などと激励した問題に端を発し、その責任追及の臨時中央委員会を委員長がゴイコトしたり、自ら召集した定期大会を一方的に延期するなど、組合を私物化する暴挙を重ね、運動方針や予算も決定できず、全国の運動がマヒする重大な事態がつついています。

日教組の運動がマヒ状態にある中で、中曾根首相は、「内外情勢調査会」の講演で、「（これで）ようやく教育改革に正面からとくめるようになった」と述べています。また、「信濃毎日」は、「自民党が田中委員長に期待したの事実だ」「われわれは表面に出ないよう注意しながら田中委員長を助けてきた」と、自民党文藝部の動きを報じています。このことは、田中委員長と一部右派幹部がなぜかたくなに組合民主主義をじゅうりんして組合員の声に背を向けているかについての根深い背景を示しているといえます。

多くのマスコミは、今回の日教組の事態を「人事をめぐる抗争」などと報道し、問題の本質をおかしくし、田中委員長らの策動を助ける役割を果たしています。田中委員長らの一連の異常な行動の背景は、日教組を何としてでも「臨教審」路線推進の方向に変質させるために日教組内の右翼潮流の地歩を確保し、これを明け渡すまいとする反動勢力のなみなみならぬ意図があります。それは今日、臨教審に賛同し加えられている苛酷な攻撃と全く軌を一にするものです。

日教組の積極的伝統と運動路線の根本的な転換・変質を許すのか、許さないのか、ここに事態の本質があります。

十月二十二日、田中委員長擁護派は、全電通・全通・電気労連など全民労協支持の右翼的労組と合し日教組問題の支援協力を訴えています。田中委員長らの横暴をこれ以上許すことはできない、こ

の声が全国に燃え広がったとき、日教組の変質を拒否し、真の団結を回復することができま。現在三十八県・高教組から、定期大会開催に近づける臨時大会開催の要求が提出され、大会代議員の署名運動、組合員の要求ハガキがとりまわっていますが、こうして九六十万組合員・OBなどをはじめとする大衆的行動によって事態の打開される日は近いでしょう。

奇星陥つ

聞崎兄の死に思ふ

小川 逸雄

胃内動脈瘤破裂、多量の血を吐いて死す。彼に相応しい最後と言うべきか。概、家歌奏する中を往く。

天馬空を切るが如く、敢て奇を街うことなく我が道を往き、酒と家歌に生き、かつ心中する。奇星燃え尽して消ゆと言うべきか。以て瞑すべし。永からざりし一生なれど。

性滯介、我志を貫くその姿勢はしばし周囲の排斥を買った。彼は正義あり、思考純潔、生一本の生き様は見事と言わずにはない。又、一見不羈奔放の如くして内に秘めた純情の精神は紅樓酒宴の巷にあっても、内に淋気、一掬の涙あり、涙れる人にてはあった。

幼き我児を連れ紅灯の巷をさすらい共に酔い痴れし若き日々。彼に引つられて共に高唱し家歌の数々。落着けは悠や如何に。走馬灯の如く追憶は巡る。

好漢安らかに眠れ。

御夫人。長々御苦勞様でした。

足摺研修旅行は 何を実現したか

叶岡 哲

ながら高退協にどぶさたして気がひけて、それがうつつ積して何ともやりきれない気分がつづいていたところへ「足摺」研修旅行の話がきたので「これだ！」と飛びついて参加しました。時期もよし、観光客でこたえがえすシーズンをはずれた晩秋の十一月八日。こういう旅行のたのしみは「だれに会えるか？」という期待、「何が起るか？」という、一種の「スリル」でしょう。

それもあって、列車の時間よりも早目に高知駅へ出かけて駅のレ

ストラップに上ってみたところ、案の定、シブさん会長、イッチャン事務局長、トミヤン、サキヤンたちはビールで気勢を上げています。「どうもどうも、こりやさきが思いやられるねえ」といひあひさつてまずは「研修旅行」のスタートをきりました。

車中에서도想像通り、ワンカット、ウイスキー、ビールで談論風発、高知市長選、中曾根内閣論、体験的太平洋戦争史論から、「教育勅諭」に集約された教育イデオロギー論、戦後教育史と経済社会構造の進化、「管理職」の精神構造と労働組合の職場活動論、テーマはさらに進んで日本人の精神構造からセックス風俗論にまでおよびました。

まさに「とどまることを知らず、行きつく先を知らず」という「ダッチロール」型シンプジウムというか、途中で眠りこんだ人が窪川あたりで突然とびおきて名論卓説を披露するといった具合で、高退協の面目躍如たるものがあり、周囲のお客さんたちもたのしみながらも少し分学習になったこととでしよ。

私自身も、いい気になって「討論」に加わりましたが、ずいぶん参考になりました。「やっぱり高退協はマジメじゃねえ」という感

秋の足摺は海の色も深く、観光客もまばらで自然の大きな静かさが充滿しています。高知港からの便船で以布利にバイクをおろし、清水高校を手にはじめに裾多郡下を一周間がかりでオルグをしたところのことなど思い出しました。

民宿では、段松さん、秋森さんと久しぶりの再会で同室になりましたが、その晩の研修会がまた盛り上がりました。カラオケで「あなただけが見えますか」と歌いながら、「一番なき競争社会、見とおしなき欲求不満型」といわれる社会の中で、退職後も時代・社会の行方を探求しつつ、民主的共同の能力と意欲を発達させつつ生きている姿は、まさに「新しい日本人像」といふにふさわしいと思

います。

渋谷会長のあいさつに「高退協は社会勢力にならねばならぬ、またかりつつある」といふ一言がありました。が、「地域の発達をリードする、婦人・青年・老人パワーカーの時代」といわれている情勢とも考えあわせて、参加者一同のつよい感銘となった研修旅行でした。